

(一財)日本リトルシニア中学硬式野球協会東北連盟

特別競技規則

(規則)

(1) 本大会は当該年度公認野球規則を適用する。

(審判員)

(2) 審判は4人制とし、(一財)日本リトルシニア中学硬式野球協会東北連盟所属審判団があたる。(ナイター照明点灯時は線審を付ける)

(不戦敗)

(3) 試合予定時刻に不在チーム及び規定の登録書(登録証を含む)未提出チームは不戦敗とする。

(競技場特別ルール)

(4) 競技場に特別ルールのある時、審判員は各試合前に監督立ち会いのもと、告知し競技にあたらなくてはならない。

(5) 各大会において球場使用時間制限等がある場合、その当日の最終試合は制限時間まで1時間45分あれば試合を行う場合もある。

(コールドゲーム)

(6) 各試合は、7回戦とし5回終了をもって正式試合とし、5回以降7点差以上の場合、コールドゲームとする。

(時間制限試合成立の関係)

(7) 試合は2時間制限試合とし、5回以降試合開始から2時間を超えて新しいイニングに入らず、制限時間に達した時点でのイニング(表裏)を最終回とし、そのイニング終了時点で同点の場合は、それ以降はタイブレーク方式を採用する。

① 試合が成立するのは5回終了なので、4回以前に2時間が経過した場合でも5回迄は継続して行う。

② 5回以降、後攻チームがリードしている試合で、後攻チームの攻撃中に2時間に達した場合はその時点で試合を打ち切り後攻チームの勝利とする。

③ 5回以降、後攻チームがリードしている試合で、先攻チームの攻撃中に2時間に達し、後攻チームのリードのまま先攻チームの攻撃が終了した場合はその時点で試合を打ち切り、後攻チームの勝利とする。

(中断)

(8) 2時間の制限時間において、次の場合による中断は試合時間に計測しない。

① けが等により、選手の治療を要する時間。

② 降雨、雷等の荒天により、試合続行が不可能な時間。

③ その他不測の事態により、審判員が必要と認めた時間。

(延長戦)

(9) 7回終了時同点かつ2時間以内の場合は、延長戦に入るが延長は9回か制限時間迄とし、同点の場合はタイブレークに入る。一死満塁で打者は前回正規に打撃を完了した次の打順の打者とする。走者は前項による打者の前の打順の者が一塁走者、その前の打順の者が二塁走者、三塁走者は二塁走者の前の打順の者とする。この場合の代打、代走は認められる。タイブレーク方式は3イニング迄継続出来るが未決着の場合は抽選とする。抽選は審判員

が○×其々9個のくじを用意し、最終守備・攻撃の18人がくじを引き○の多いチームを勝ちとする。尚、7回を終了し延長回の途中及びタイブレーク中に試合続行不可能になった場合は、試合を中断し抽選とする。

(決勝戦)

- (10) 決勝戦は、コールドゲーム及び2時間制限試合を適用しない。但し、延長は2回迄とし、タイブレークに入る。タイブレークは決着がつくまで継続する。

(特別継続試合)

- (11) 降雨、日没、その他理由により試合続行不可能な場合は、後日、前の試合の回と経過時間を引き継ぎ特別継続試合で行う。但し、7回終了時同点の場合は、延長戦を省きタイブレークに入る（特別継続試合の日程等は本部で決定する）。

(危険防止措置)

- (12) 選手は、打者走者とも危険防止の為、必ず両耳付きヘルメットを着用の事（ボールボーイを採用している場合も同様とする）。又、捕手は必ずバイク（急所防具）及び捕手用具を着用の事（投球練習及びブルペンにおいても同様とする）。
- (13) 金属製バット及びヘルメットは、公認されたものを使用し、バットリング、鉄棒は、球場への持込みを禁止する。
- (14) 次打者若しくは正規の代打者は、投手が投球動作に入ったら、自身の安全の為、自軍のウエーティングサークル内に低い姿勢で待ち、守備を妨害する様な行為をとってはならない。

(投手)

- (15) 投手は、投手板に触れている状態で片方の手を下に降ろし、捕手からのサインを受けなければならない。セットの姿勢でサインを見る場合は、片方の手を下に降ろして身体の横に付けていなければならない。

(打者)

- (16) 打者は、みだりにバッターボックスを出る事は許されない。たとえタイムを要求しても、審判員がタイムを宣告しない時はインプレイとする。

(臨時代走)

- (17) 試合中選手に不慮の事故が起き、攻撃側チームより臨時代走（コーティジランナー）の申し出があった時、審判員がその必要を認めれば、守備側チーム監督に事情を説明して許可する。臨時代走者は、事故のあった走者より打順が一つ前位のプレーヤーを選ぶ事とし（但し投手は除く）、代走はその場限りとし、守備側チームによる指名権はない。
- (18) 頭部への死球（ランナー送球時も含む）については、全てにおいて臨時代走を適用する。

(ブルペン)

- (19) 攻撃中、守備中を問わず、グラウンドでの選手のウォームアップは1組以内とする。但し、次イニングからの守備交代選手に限り、ベンチ前において他に1組のキャッチボール（ゴロでの練習は不可）を認める。
- (20) 5回終了時メンバー表を交換後、次試合の先発バッテリーが投球練習を申し出た場合に限り、試合中のチームと次試合チーム計2組のウォームアップを認める。ブルペンがグラウンド外にある場合はその限りではない。その場合、ブルペン内では投球練習以外の事は出来ない。

(ラフプレイ)

- (21) 選手の安全を守る為、故意に相手方選手を傷つける様な行為があった場合は、当該審判員の判断により、その選手を退場させる事がある。

(ハーフスイング)

- (22) ハーフスイングの裁定については、公認野球規則 9. 0 2 (C) [原注 2] を適用する。
- ① 捕手は、打者を指さし口頭で“スイング” “振った”と球審に要請する事が出来る。
 - ② 捕手が一塁や三塁塁審に対して直接指さし、リクエストは出来ない。
 - ③ 監督は打者が振ったか否かについて、ベンチ内から捕手に指示する事が出来る。

(監督の異議及び通告)

- (23) 監督、コーチ及び選手は、ストライク、ボール、アウト、セーフ及び、フェア、ファウルボールの判定について、いかなる異議も申し立てる事は出来ない。
- (24) 異議及び選手交代の通告は、必ず監督が行う。監督不在の場合は、大会規定に定めた監督代行者が代行する。尚、異議については、公認野球規則による。

(審判員の裁定)

- (25) 監督は、当該審判員が規則適用の誤りを犯している場合に限り異議が出来る。但し、控え審判員を含む審判員の合議の裁定は最終判定となる。
- (26) 審判員は、この規則に明確に規定されていない事項に関して、自己の裁量に基づいて裁定を下す権能を与えられている(公認野球規則 9. 0 1 (C))。

(監督の指示及び野手が投手のもとに集まれる回数制限)

- (27) 監督が 1 試合 (7 イニングス) に投手のもとへ行ける回数を 2 回までとする。但し、投手を交代させた場合は回数として数えない。時間は審判がタイムを宣告後 30 秒以内とする。
- (28) 監督が 1 試合に 2 回投手のもとへ行ったら、3 回目に行けばその時の投手は自動的に交代する。但し、交代した投手は他のポジションにつく事が出来る。延長回 (タイブレーク含む) に入った場合、監督はそれ以前の回数に関係なく 2 イニングスに 1 回、投手のもとへ行く事が出来る。
- (29) 2 人以上の野手が投手のもとへ行ける回数を 3 回までとする。投手交代の際、監督と共に野手がマウンドに集まる事は、回数として数えない。延長回 (タイブレーク含む) に入った場合、野手はそれ以前の回数に関係なく 1 イニングスに 1 回投手のもとへ行く事が出来る。
- (30) 攻撃側の監督が打者又は走者に指示を与える回数を、1 試合 (7 イニングス) に 3 回までとする。時間は審判がタイムを宣告後 30 秒以内とする。延長回 (タイブレーク含む) に入った場合、攻撃側の監督はそれ以前の回数に関係なく 2 イニングスに 1 回、打者又は走者に指示を与える事が出来る。
- (31) 相手チームのタイム中に打者、走者に指示を与える事が出来るが、プレイの再開を遅らせた場合は、攻撃側監督のタイム 1 回と数えられる。

注 1 監督が投手のもとへ行ったらかどうかの判断は、ファウルラインを越えたか否かを基準とする。

注 2 野手が投手のもとへ行ったらかどうかの判断は、各塁を結ぶ線と投手板の中間点を越えたか否かを基準とする。

(マナーアップ、スピードアップ)

- (32) マナーアップ、スピードアップについて

① 試合中のマナーアップを図る為、以下の点を順守する事。

- ア 塁上の走者やベースコーチが守備側のサインを盗み打者に知らせる行為は禁止する。
- イ 得点した時、選手のリーダーが音頭を取り、声を揃えて手拍子する行為は自粛する。
- ウ 本塁打を打った選手をベンチから出たの出迎えは禁止する。

- エ 捕手が投球を受ける際、ストライクに見せる意図でミットを動かす行為を禁止する。
- オ 捕手が投球を受ける際、極端にキャッチャーズボックスから出て構える事は慎む。
- カ 勝敗が決定した時等に、必要以上に大騒ぎをする事を慎む。
- キ 投手のウォームアップ中、打者がバッターズボックス付近でタイミングを計る様な行為は禁止する。
- ク 投手が、投球動作に入ってから素早く顔を塁の方向に向けて牽制する行為は、アンフェアな行為である為、リトルシニアでは禁止する。試合中にこの行為が見られた場合には、審判員が注意・指導するが、それでも繰り返した場合には、ペナルティとしてその投球をボークとする。
- ケ ベースコーチが、打者走者（走者）の触塁に合わせて「セーフ」のジェスチャーや相手選手をまどわす行為を禁止する。

② 試合中のスピードアップを図る為、以下の点を順守する事。

《監督の行動》

- ア 監督のマウンドへの行き帰りは、小走りでスピーディーな行動をとる。
- イ 複雑なサインによる時間のロスをなくし、速やかにサインを出す。
- ウ 選手交代時は出来るだけ交代選手を事前に準備させ明確にかつ簡潔に球審に告げる。
- エ 攻守交替（攻撃）の時、ベンチ前ミーティングは短くし、速やかに選手をベンチに入れる。

《選手の行動》

- ア バッテリーのサイン交換は速やかに行う。
- イ 投球のインターバルは長くせず短縮を心がける。
- ウ 捕手の防具装着は、控え選手が手伝い速やかに守備につく。
- エ 投球がワンバウンドした時、不必要に毎回球審にボール交換を要求しない。
- オ スパイクシューズのひもの結び直しで、タイムを取らない様に事前に確認する。
- カ タイムでマウンドに集まった後、駆け足で守備位置に戻る。
- キ 準備投球は1分を越えない。
- ク 投手は不必要に時間をかけず、テンポ良く投球する。

選手の登録及び大会出場に関する当面の措置について

- 1 東北連盟施行細則第4条及び大会規定細則運営要項（3）にかかわらず中学生の選手が9名以上の場合は大会出場を認める。但し、大会中選手が9名に満たない事態が発生した場合は不戦敗、又は没収試合とする。

（2012年度第1回理事会決定事項）

（2013年度第3回理事会決定事項）

- 2 日本リトルシニア中学硬式野球協会が主催する全国大会の選手登録人数は10名以上25名（中学生のみ登録可）以内であるが、東北連盟のそれは9名以上である。仮に9名以下のチームが全国大会の出場権を得た場合は、全国大会の登録期限迄にその人数を揃えられない場合は出場資格を失う。その場合は次順位のチームが繰り上がり出場する。

（2012年度第2回理事会決定事項）

（2013年度第3回理事会決定事項）